

障害学生への文字情報保障における遠隔特有の課題と解決策

－九州大学における遠隔情報保障の実践から－

企画者	下中村武（九州大学）
司会者	古田弘子（熊本大学）
話題提供者	若月大輔（筑波技術大学） 下中村武（九州大学） 中野光里（九州大学） 田中星夏（九州大学アクセシビリティ・ピアサポーター）
指定討論者	白澤麻弓（筑波技術大学）

KEY WORDS: 障害学生支援 遠隔情報保障 ピアサポーター

I. 企画趣旨

聴覚障害がある学生等（当事者学生）への情報保障に関する課題として、以下の3つが挙げられる。①当事者学生自身については、情報保障を希望しないことや配慮を希望する内容を適切に説明できないこと、②授業担当教員（教員）については、話し方の工夫・専門用語の板書・視覚資料の準備が十分でなく、情報保障や合理的配慮に関する理解が十分でないこと、③支援学生（PS）については、支援の量的充足と質的充足の必要性が指摘されている（小林ら，2017；倉谷，2010；新海ら，2017）。これらに加え、遠隔情報保障に求められる条件として、活用しやすいシステムであること、映像も含めるなど遠隔情報保障を実施しやすい環境を整備することなども指摘されている（金澤ら，2010）。また、情報保障等に理解が十分でない教員については、遠隔情報保障になったことで、さらに主体性に課題が生じると考えられる。

そこで、本シンポジウムでは、1. 遠隔情報保障システムの概要、2. PS の養成方法、3. 遠隔情報保障の効果的実施に必要な条件、4. コーディネートの課題に関する話題提供から、遠隔特有の課題と解決策を議論する。

II. 話題提供者の趣旨

1. 若月大輔：遠隔情報保障システム captiOnline の概要－使用方法や活用例について－

captiOnline（キャプションライン）は、ウェブブラウザだけで遠隔から PC 文字通訳を行うことができるシステムである。オンラインで授業や会議が行われることが日常になっている現状において、オンラインでの文字通訳の需要が高まっている。captiOnline は、専用のソフトウェアや機器が必要なく、普段使用している PC やスマートフォンだけでオンラインの遠隔文字通訳を容易に実現できる。また、質の良い文字通訳には、支援者が使いやすいインタフェースが不可欠である。captiOnline には支援者が快適な連係入力ができるよう様々な機能が実装されており、音声認識を活用した文字通訳も可能である。

本シンポジウムの話題提供として、開発コンセプトや機能、使用方法について述べる。

2. 下中村武：遠隔情報保障を担う PS の養成方法

遠隔情報保障を行う場合、情報保障に関わる専門性（情報保障技術、障害に関する知識、共感的に理解する力、対人援助技術、組織の調整力・交渉力、ネットワーク形成力（倉谷，2010））と遠隔情報保障システムに関する知識・技術が求められる。しかし、情報保障技術については PS のみで高めるには限界があるため、専門的指導が必要となる。そこで、発表者による PS への指導の実践（養成方法）について報告する。

3. 田中星夏：遠隔情報保障の効果的実施に必要な条件－PS の視点から－

効果的な情報保障の実施のためには、当日の情報保障環境や当事者学生とのやり取り、振り返りの充実などが必要である。遠隔化により、当事者学生のニーズが十分に把握できない場合に、コーディネーター（Co.）等を通じてオンラインで情報共有を行うこと、授業中に得られる情報が制限されるため、入念な事前準備を行い、支援中に PS 同士で情報共有を行うこと、振り返りの時間を取りにくい状況に対し、オンラインで時間を確保するなどの工夫をしている。そこで、これらの具体的な取り組みについて報告する。

4. 中野光里：遠隔情報保障に関するコーディネートの課題－合理的配慮 Co. の視点から－

授業での遠隔情報保障実施にあたり、教員・当事者学生・PS 間の連携は不可欠であり、Co. は三者間をつなぐ役割を担っている。情報保障の効果的実施にあたり、教員の主体性は大きな要因だが、遠隔情報保障ではその低下が見受けられた。その理由として、情報保障や合理的配慮への理解不足、情報保障の可視性の低下、情報保障の有用性への認識の低さ等が考えられる。そこで、このような状況に対して可能な取り組みについて Co. の視点から検討・報告する。

III. 指定討論者の趣旨：白澤麻弓

遠隔情報保障システムを用いた情報保障支援は、従来よりその可能性に期待されつつも、支援現場への導入が広がらなかった手法である。この背景には、本シンポジウムでも焦点となっている遠隔特有の困難性があるためであり、思い描くよりも複雑な課題が絡み合っている手段と言える。しかし、その一方で遠隔情報保障を活用することで広がる世界の大きさは計り知れず、今後の障害学生支援のあり方を大きく変える可能性もある。本指定討論では、以上のような視座に立ち、各話題提供者から提示された課題や困難性について再整理するとともに、ポストコロナ時代に目指すべき支援のあり方について議論したい。

文献

金澤ら（2010）遠隔通信技術を活用した聴覚障害学生支援システムの実運用に向けた課題. 群馬大学教育実践研究.
小林ら（2017）大学における聴覚障害学生への情報保障に関する課題. 上越教育大学研究紀要.
倉谷慶子（2010）支援に関わる人材の配置. 金澤貴之・大杉豊（編），一歩進んだ聴覚障害学生支援. 生活書院.
新海ら（2017）パソコン要約筆記を用いた情報保障における支援学生および聴覚障害学生のニーズに関する一研究.
(SHIMONAKAMURA Takeshi, FURUTA Hiroko, WAKATSUKI Daisuke, NAKANO Hikari, TANAKA Seina, SHIRASAWA Mayumi)